

開催地名：広島県福山市	
開催日時	令和2年2月9日（日） 14:30～16:00
開催場所	福山市役所
語り部	吉田 亮一（宮城県仙台市）
参加者	福山防災リーダー登録者及び2019年度福山防災大学修了者 約100名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ巨大地震による被害が県内最大と想定されているため、一昨年から防災リーダーを育成し、市民に「自助・共助」の重要性を周知しているが、市民の災害への意識は希薄である。災害体験者も少なく、低年齢層への災害伝承が課題であると認識している。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>私は、これまでの人生の中で3度の大地震を経験しており、現在YY防災ネットより依頼を受けて、年間30回程度、全国で防災講座を実施している。東日本大震災時は、仙台市太白区茂庭台5丁目地域の指定避難場所の責任者を、17日間努めた。そこで、今回は地震が起こる前に備えておくことと避難所運営を中心にお話したい。</p> <p>（２）防災とは</p> <p>自助、共助、公助の3要素が揃って、初めて「防災」といえるのかもしれない。そして、それらは全ての人において、必要不可欠と言える。「心配ない」、「ありえない」、「まだ大丈夫」、「まさかと思う」といったことは全て、人間だけが思うことである。常に危機感を持つことと、想定以上の備えをしておくことが、防災・減災の基本である。自然災害の発生が今後も予想される中で、全ての責任者及び住民は、最大限の危機感と想定以上の備えで、命を守ることをお願いしたいと思う。そして、「想定外」とは単なる言い訳に過ぎないということを認識していただきたいと思う。</p> <p>（３）事前の備えと避難所運営</p> <p>東日本大震災発生から遡ること約5年。平成18年に、当時幼稚園の理事だった私は、月に1度義務付けられていた幼稚園での防災訓練をベースにして、地域防災を立ち上げ、防災活動をスタートした。地域の防災マニュアルを自分たちで作成し、各役割の分担も年ごとに持ち回りで行った。そして、毎年、全ての方を対象とした総合防災訓練を、大地震が昼間に起こった場合と夜間に起こった場合を想定して、2つの時間帯で行った。更には、平日の日中働いている大人の協力を抜きにした小・中・高生を中心とした訓練も実施した。</p> <p>以上のような活動を5年間続けていたことによって、東日本大震災発災後の対応や、地域内の各避難所での対応は比較的スムーズにいったのではないかと</p>

思っている。小・中・高生にある程度の役割分担をさせることにより、喜んで、そして迅速に動いてもらえるので、避難所で貴重な戦力となり、結果としてスムーズな運営につながる。そして、地域ぐるみの日頃の積み重ねが、いざというときには非常に役立つ。その他、避難所で避難してきた方々が円滑に過ごせるよう、様々な対策も施した。その中の主なものを紹介する。

#### 「O157対策」

ダンボールの上にじかに座るのではなく、段ボールの上にブルーシートを敷くようにする。嘔吐した方がいたら、新聞紙でブルーシート上の嘔吐物を取り除いた後、塩素系の洗剤でシートを拭く。ダンボールの上に直接嘔吐されると、ふき取る際に紙の繊維が飛び散ることで、菌が飛散する恐れがある。

#### 「半島型避難スペース」

通常の設定方法だと、ただ単にブルーシートを敷いただけで終わりだが、それだけだと、外に出たり、食事をもらいにいったり、トイレに行ったりするたびに、奥側にいる方々は人を跨ぐ必要があり、さらには誰もが入ってこれるため、防犯上の問題もある。そこで、ブルーシートを1枚当たり、2メートル×4メートル幅に切り、それらのシートの間隔を1メートルずつ開けて、人を跨がずにどこからでも出入りできるように体育館に配置する。体育館の両サイドの壁際には体育で使うマットを敷き、その上に跳び箱の一番上の段の部分を置いて、足を伸ばして座れるスペースも確保した。このスペースは、特に高齢者の方々に好評であった。



開催地より

地域で万全とも言える防災訓練を実施されていたことや、地域住民の防災に対する意識の高さ、そしてそのような環境を整備した語り部の努力に敬意をあらわしたいと思う。今後の活動に大いに参考になるお話だった。